

国際学術交流

1. 国際学術交流の現状

当研究所が年次的におこなっている諸外国との国際共同研究には、特別研究として次の2件がある。

1) 南アジア仏教遺跡の保存整備に関する基礎的調査研究

2) アジアにおける古代都城遺跡の研究と保存に関する研究協力

また、文化庁が実施する「アンコール文化遺産保護共同研究」も当研究所で協力しており、文部省科学研究費補助金として次の2件を国際共同研究として実施した。

1) 中国古墳壁画の総合的調査と保存法の開発研究

2) 陶磁器文化の交流に関する科学研究

当研究所が外国の諸機関・研究者とおこなう交流も近年多岐におよび、ほとんど全世界的なものとなってきた。1996年度をみてもそれらの研究推進のため、当研究所が招聘した研究者および先方の研究目的での来訪者は計21ヶ国、延べ73人、当研究所から外国への出張者は16ヶ国、延べ71人にのぼっている。来訪者は奈文研の特別研究、科学研究費国際学術研究、国際交流基金、日本学術振興会、ユネスコ、日本国際協力センターの招きによるもののほか、先方からの訪問者である。

自治体職員協力交流事業特別研修 地方公共団体、自治省および(財)自治体国際化協会がおこなう「自治体職員協力交流事業」にもとづき、海外から、文化財保護関係機関・博物館・美術館等に勤務する職員を受け入れて、研修事業を実施するにあたり、文化庁および諸機関が協力するという趣旨のものである。当研究所も1996年度から受け入れの依頼があり、奈良・広島・山口の各県が受け入れた中国人研究者3名が、9月2日から6日まで特別研修を受けた。わが国における文化財行政の現状、保存科学、遺跡探査等について研修したほか、平城宮跡、飛鳥藤原宮跡、飛鳥資料館等の見学をした。

財団法人日本国際協力センターが実施する「博物館技術コース」への協力 財団法人日本国際協力センターが開発途上国を対象に、毎年実施している標記の研修の一部を引き受けて、12月2日より12月6日までの1週間当研究所で実施した。内容は、日本の各種文化財の保存の現状や遺跡

発掘、保存修復・整備、建造物見学などであった。参加者はブータン、ボリビア、ガーナ、インドネシア、モルジブ、パプアニューギニア、シンガポール、ザンビア、ケニア、ベトナムからの各1名であった。このうち、ボリビアのグスタボ氏は、翌年2月にも1週間、保存科学等の特別研修を受けた。

文化庁の外国人文化財専門家招聘事業による来訪者 以下の3名の外国人研究者を招聘した。

①韓国から李健茂氏(1997年2月27日～3月5日):国立光州博物館長で韓国の青銅器研究の第一人者。過去にも訪問経験があるが、最近のわが研究所の研究状況等について意見交換し、大阪市で韓国の青銅器研究などについて講演した。

②アイルランド共和国からB.ラフテリー博士(1997年3月8日～3月23日):ダブリン大学考古学の教授で、同国で多くの低湿地遺跡の発掘調査を手がけている。関西を中心に岡山、九州を訪れて講演をおこない、また精力的に低湿地遺跡の植物質遺物、遺構の研究、日本の有機遺物の保存施設の視察をおこない交流を深めた。

③ドイツからH.チンマーマン博士(1997年3月18日～4月7日):ドイツ北部のニーダーザクセン州立沿海歴史調査研究所の副所長をつとめる考古学者。北欧と日本における掘立柱建物の変遷に関する比較研究のために来日し、わが研究所と大阪で講演したほか、各地で多くの研究者と交流した。

国際学会への出席 以下の国際学会へ出席した。発表したのは10件、参加者は延21名である。

ヨーロッパ物理探査学会(ハーグ)/低湿地遺跡研究会(コペンハーゲン)/文化財保存学会-IIC(コペンハーゲン)/博物館会議-ICOM(エジンバラ)/石造物保存学会(ベルリン)/東アジアの鉄器文化(ソウル)/韓国保存科学学会(ソウル)、聖徳大王神鐘シンポジウム(ソウル)/アジア文化財保存セミナー(奈良)/シンポジウム農耕と文明(奈良)

以上のように、国際的な学術交流は、きわめて活発に展開しており、その勢いは年々増大する傾向を示している(48～49頁参照)。しかし当研究所には、国際交流を専門に担当する部局や事務官が存在せず、各研究者の負担が増しているのが現実というほかない。(工業善通)

2. 中国社会科学院との第2次友好共同研究

当研究所では、日本古代都城の源流を探るため中国・

朝鮮における古代都城に対して大きい関心を寄せてきた。その趣旨に添って、1991年6月に中国社会科学院考古研究所と当研究所の間で「友好共同研究議定書」をかわし、都城を中心とする共同研究を実施し、北魏洛陽永寧寺の共同調査などの成果をあげてきた。

1996年度、当研究所の特別研究予算として「アジアにおける古代都城遺跡の研究と保存に関する研究協力」が認められるとともに、「友好共同研究議定書」を更新する年度にあたった。それと本年度からの共同研究計画を確認するため、田中所長・町田章・浅川滋男が北京に赴き、共同研究をさらに5年間延長する議定書に調印した。6月13日のことである。今年を中心テーマとして漢長安城における宮殿遺跡を発掘調査することとし、あわせて発掘届けを国家文物局に提出した。しかし、中国側の事情により、年度内には調査不可能と判断して、遼寧省考古文物研究所との共同研究に変更せざるをえなくなった。これについては4.を参照されたい。

3. 唐大明宮含元殿の保存整備事業への協力

ユネスコ・日本外務省が中国西安市に所在する大明宮含元殿の保存整備事業について本格的に着手したのは1994年のことであり、それにもなって「大明宮含元殿日中保存事業協力委員会」が結成され、当研究所から町田が参加している。95・96年には中国社会科学院考古研究所が整備に先立ち、遺跡の範囲をほぼ全面的に発掘調査した。1959・60年の第1次調査では、含元殿基壇と東西にそびえる閣樓の調査が中心であり、基壇の南に展開する広場に想定した龍尾道と含元殿左右の遺構については、なお問題点が残されていた。今回の第2次調査では、これまで台基の中央部に3本の龍尾道を想定したのは誤りで、東西の閣樓下に龍尾道が存在することがあきらかになり、含元殿の左右に角樓・回廊があり、北方からの出入口として左右に門を開くことがわかった。また基台の東には建築に用いた瓦磚類を焼いた窯跡もみつかった。

96年11月1日、西安市において「大明宮含元殿日中保存事業協力委員会」が開催され、上記の発掘成果の報告を受けるとともに、それに基づく遺構の保存整備案を検討した。この委員会では基壇上面までの復原整備という点における共通認識に立脚するものの、発掘調査で不明確な部分は復原せず、できるだけ現状維持の整備に留め

遼寧省文物考古研究所での調査風景

ようとする中国側委員の意見と、遺物が出土している欄干などは積極的に復原すべきだとする日本側委員の意見とが大きく対立することになり、再度整備案を模索することになった。いずれにせよ、97年度からは本格的な整備事業が開始することから、ユネスコは西安市側の整備事業責任者である高本憲氏を、12月から97年1月まで当研究所に派遣した。同氏は短期間ではあったが、平城宮跡で実施している保存整備の実際を体験するとともに、各地の実施例を視察した。また、96年11月には日本に滞在中の楊鴻勛氏（保存整備案の設計者）を当研究所に招いて、大明宮含元殿の研究発表会を開き、平城宮第一次大極殿と含元殿との深い関係が認識された。（町田 章）

4. 遼寧省文物考古研究所との共同研究

日本と中国との国際学術交流の一環として、「東アジアにおける古代都城遺跡と保存に関する研究——三燕都城等出土の鉄器及びその他の金属器の保存研究——」という研究課題で、中国遼寧省文物考古研究所と共同研究をおこなうことになり、3月10日～29日、日本側が現地へ赴いた。まず、遼寧省文物考古研究所、朝陽市博物館等で遺物を調査・観察した後、これらが出土した三燕時代のラマトン（喇嘛洞）、十二堂宮子等の遺跡を視察した。その後、討議を経て、今回のおもな研究対象となったラマトン遺跡出土遺物を中心に、保存処理に先だつ詳細な観察と実測、写真撮影をおこなった。

ラマトン遺跡は、遼寧省北票市にあり、大凌河北岸の東西にのびる丘陵の南斜面に立地する3世紀末～4世紀代の鮮卑族の墓地で、遺跡から大凌河を約30km遡ると、三燕（前燕・後燕・北燕）時代の都城である竜城に至る。三燕時代の墓としては、前燕の奉車都尉墓、北燕の馮素弗墓などが知られていたが、1993年以降のラマトン遺跡の発掘は、最大規模のものであり、現在までに23基の墓を発掘し、鉄製品・金銅製品・青銅製品等の豊富な副葬品が出土している。出土遺物の一部には、馬具の金銅製透彫鞍金具、馬冑、挂甲等、日本や韓国の4～5世紀の

アンコール・ワット全景（北西からみる）

古墳から出土する遺物と共通するものがあり、年代が先行することから、日本や韓国の馬具・武具の源流を考える上で、候補地の一つとなりうるものである。しかし、両者の関係を解明するには、今後、周辺地域も含めた、詳細な研究が必要になってくるであろう。（小林謙一）

5. 南アジア仏教遺跡の保存整備に関する 基礎的調査研究

この研究はミャンマー連邦文化省考古局との共同研究の3年目にはいった。主として研究者の交流をおこなっており、本年は、考古局バガン研究所長アウン・チャイを1996年11月19日～12月3日まで、考古局研究員チョウ・トウ・アンとミン・ウェイの両氏を11月19日～1997年1月7日まで招聘し共同研究をおこなった。ここでは寺院・宮殿の建築遺構の発掘方法について相互の意見を交わし、飛鳥藤原宮跡発掘調査部において掘立柱の検出や測量方法について、具体例を前にして検討をした。今後、南アジアにおいて木造建築の発掘が予想でき、それに対応できよう。

一方、奈文研から、猪熊・巽・森本・村田の4研究員が1997年1月7日～20日にミャンマー政府考古局と遺跡を訪れ、各地で意見交換をした。パゴア、マンダレー、モラーミン、メッテラー、バガンなどである。とくに、97年から開始予定のマンダレー地区パイレ村ミンザイの古代都市跡は発掘計画段階から日本との共同研究の応用が生かされている。バガン遺跡群では、当研究所の発掘用具が模され、現場で使用されるなど、早くも学術交流

の一端があらわれている。国際共同研究として、理想的な方向に進みつつある。（猪熊兼勝）

6. アンコール文化遺産保護共同研究事業

文化庁では、海外での文化財保護に積極的に貢献することを目指して、さまざまな施策を実行している。その一環として、伝統文化課を所管とするアンコール文化遺産保護共同研究事業が平成5年度から始まった。アンコール文化遺産は、カンボジア王国中部のトンレサップ湖北岸に広がるクメール王朝の都城と寺院を中心とする遺跡群で、東西25km、南北13kmの範囲に、約1000ヶ所の遺跡がある。そのうちの62ヶ所が重要遺跡とされ、ユネスコの世界文化遺産にも登録されている。なかでもアンコール・ワットとアンコール・トムは、東南アジア有数の大遺跡である。本事業は、アンコール文化遺産諸遺跡の保護に関して共同で研究を実施することを主たる目的としている。具体的には以下の6項目に重点をおく。

(1)遺跡探査に関する共同研究 (2)遺跡、遺構の写真測量に関する共同研究 (3)石造建造物等の劣化対策に関する共同研究 (4)発掘調査に関する共同研究 (5)修復技術および保存科学に関する共同研究 (6)広域遺跡整備に関する共同研究

各々の項目について、日本から調査団を派遣し、現地でもカンボジア人研究者と共同して調査をおこなうとともに、日本にカンボジア人研究者を招聘し、当研究所を中心に研修をおこなっている。（杉山 洋）

1996年度
海外から奈文研への
主要訪問
研究者一覧

- 権 鐘南 (韓国/寧越工業専門大学建築科助教授) 1996年7月29日～7月31日
- 洪 享雨 (韓国/国立文化財研究所遺跡調査研究室学芸研究士) 1996年9月9日～9月30日 奈文研招聘
- 祁 慶國 (中国/北京文物研究所)、韓 國河 (中国/鄭州大学文博学院)、張 從軍 (中国/山東省文物管理局) 1996年9月2日～9月9日 自治省招聘
- Kyaw Oo Lwin (ミャンマー/考古局研究員) 1996年5月20日～11月20日 奈文研招聘
- 張 正男、丁 環錫 (韓国/国立慶州文化財研究所) 1996年12月3日～12月8日
- 楊 鴻勳 (中国社会科学院考古研究所) 1996年11月18日～11月19日
- 高 本憲 (中国/西安市大明宮遺跡保管所長) 1996年11月21日～1997年1月31日 ユネスコ招聘
- Dorji WANGCHUK (ブータン/国立博物館学芸員)、Vu Huu Minh (ヴェトナム/フェ遺跡保存センター文化財専門官)、Gustavo Felix Sunavi LARICO (ボリビア/国立民族・民俗博物館学芸員)、Joseph Gazari SEINI (ガーナ/中央博物館長)、Aris Ibnu DAROJAD (インドネシア/博物館部展示課長)、Ali WAHEED (モルディブ/国立博物館主任学芸員)、Joseph Lava KAIYO (バブアニューギニア/国立博物館アートギャラリー主任学芸員)、Shahril Bin Mohd SHAH (シンガポール/国立文化遺産局教育技官)、Tendayi CHIPANGANO (ザンビア/ルサカ国立博物館図書館司書)、Frederick Karanja MIRARA (ケニア/国立博物館教育長) 1996年12月2日～1996年12月6日 JAICA招聘

- Kyaw Tun Aung (ミャンマー/考古局ミャウー文化遺産支局副局長)、Min Way (ミャンマー/考古局研究員) 1996年11月21日～1997年1月10日 文化庁招聘
- Aung Kyaing (ミャンマー/考古局パガン文化遺産支局長) 1996年11月21日～12月3日 文化庁招聘
- 金 玉年 (韓国/釜山大学校博物館学芸士) 1997年1月20日～2月9日
- Chhun Nak, Kinal Keo, Chan Kanha (カンボジア/王立芸術大学生) 1997年1月8日～3月28日 文化庁招聘
- 張 群喜、郭 嵐、畢 暉 (中国・陝西省歴史博物館) 1997年2月3日～3月4日 奈文研招聘
- Gustavo F.S. Larico (ボリビア/国立民族・民俗博物館) 1997年2月10日～2月14日 JAICA招聘
- 張 国林、万 欣 (中国/遼寧省文物考古局)、謝 飛 (中国/河北省文物研究所長) 1997年2月18日～3月29日 奈文研招聘
- 劉 建国、高 立兵 (中国社会科学院考古研究所) 1997年2月16日～3月28日、奈文研招聘
- Ly Vanna (カンボジア/アプサラ助手)、So Sokuntheary (カンボジア/鉱工業エネルギー省技官) 1997年2月17日～3月28日 文化庁招聘
- 李 健茂 (韓国/国立光州博物館長) 1997年2月27日～3月5日 文化庁招聘
- 王 小慶 (中国/陝西省考古研究所) 1997年3月7日～1997年3月31日 奈文研招聘
- 朱 岩石 (中国社会科学院考古研究所) 1997年3月8日～3月29日 奈文研招聘
- 楊 志軍 (中国/黒龍江省文物管理局副局長) 1997年3月1日～3月7日 東洋文庫招聘
- 黄 慰文 (中国科学院古人類研究所主任) 1997年3月20日～3月29日 文化庁招聘
- 趙 大昌 (中国科学院瀋陽応用生態研究所長) 1997年3月23日～3月28日 奈文研招聘
- V. Boldin, Y. Nikitin (ロシア/ウラジオストok極東研究所) 1997年3月9日～3月12日 青山学院大学招聘

- Raftrey Barry (アイルランド/ダブリン大学教授) 1997年3月8日～3月23日 文化庁招聘
- 趙 榮濟 (韓国/慶尚大学校博物館館長)、柳 昌煥 (同館学芸研究士) 1997年3月15日～3月28日 奈文研招聘
- Richard Evershed (連合王国/プリストル大学講師) 1997年2月27日～3月7日 奈文研招聘
- W. Haio Zimmerman (ドイツ/ニーダーザクセン州立沿海歴史調査研究所副所長) 1997年3月18日～4月7日 文化庁招聘

1996年度
奈文研研究者の
海外渡航一覧

- ◆ 西村 康 1996年5月4日～5月17日/オランダ・連合王国「ヨーロッパ物理探査学会出席及び研究調査」(文部省科学研究費)
- ◆ 沢田正昭・肥塚隆保 1996年5月7日～5月11日/中国「中国古墳壁画の総合的調査と保存法の開発研究」(文部省科学研究費)
- ◆ 深澤芳樹 1996年5月18日～5月21日/韓国「韓国出土の無文土器時代遺物の調査研究」
- ◆ 田中 琢・町田 章・浅川滋男 1996年6月12日～6月16日/中国「アジアにおける古代都城遺跡の研究と保存に関する研究協力」(奈文研特別研究)
- ◆ 杉山 洋 1996年6月17日～7月5日/タイ「タイ国におけるクメール陶器及びその窯跡の調査」(日本学術振興会)
- ◆ 光谷拓実 1996年6月30日～1996年7月6日/韓国「韓国における年輪年代学の調査・指導」(大韓民国文化財研究所)
- ◆ 猪熊兼勝 1996年7月3日～18日/ペルー共和国・チリ共和国「南米、南太平

洋の石像物調査

- ◆浅川滋男 1996年7月6日～7月21日
／中国「中国黒龍江省におけるツングース系諸民族住居の調査と資料収集」(住宅総合研究財団)
- ◆沢田正昭 1996年7月20日～7月24日
／中国「唐代壁画の保存修復のための資料収集」
- ◆白杵 勲 1996年8月5日～9月2日
／ロシア「アムール河下流遺跡一般調査」
- ◆沢田正昭 1996年8月9日～8月17日
／アメリカ合衆国「陶磁器文化の交流に関する科学的研究」(文部省科学研究費)
- ◆古尾谷知浩 1996年8月10日～8月27日
／カンボジア王国「アンコール文化遺産保護に関する共同研究」(文化庁特別研究)
- ◆高妻洋成 1996年8月19日～8月25日
／中国「ニヤ収集木製品の調査」(文部省科学研究費)
- ◆沢田正昭 1996年8月24日～9月15日
／連合王国・デンマーク「文化財保存学会出席、発表」
- ◆西村 康 1996年8月25日～1996年9月1日
／カンボジア王国「アンコール文化遺産保護に関する共同研究」(文化庁特別研究)
- ◆浅川滋男 1996年8月27日～9月1日
／韓国「朝鮮半島東南部における古民家調査」
- ◆加藤允彦 1996年8月30日～9月4日、10月1日～10月4日、11月15日～11月20日、12月16日～12月18日
／中国「遺跡公園に設置する石像製作に係る石材調査など」(大宇陀町)
- ◆佐川正敏 1996年9月1日～12月15日
／中国「中国旧石器時代の研究」(日本学術振興会・中国科学院)
- ◆町田 章 1996年9月4日～9月17日
／中国「中国遼寧省における遺跡整備の指導」(国際交流基金)
- ◆松井 章 1996年9月6日～9月20日
／デンマーク「国際低湿地遺跡研究会出席」
- ◆沢田正昭 1996年9月28日～10月10日
／ドイツ「国際石遺物保存会出席」
- ◆工業善通 1996年9月30日～10月12日
／ドイツ「ドイツにおける新石器時代の

考古遺物の材質・製作技法に関する調査」(文部省科学研究費)

- ◆木村 勉 1996年10月7日～10月18日
／韓国「アジアにおける古代都城遺跡の研究と保存に関する研究協力」(奈文研特別研究・大韓民国文化財研究所)
- ◆川越俊一 1996年10月16日～12月15日
／イタリア・フランス・連合王国「西ヨーロッパにおけるガラス生産遺跡の遺物の研究」(文部省在外研究員)
- ◆玉田芳英 1996年10月17日～10月21日
／韓国「韓国内の遺跡の調査・研究」
- ◆工業善通 1996年10月24日～10月27日
／韓国「国際学術大会《東アジアの鉄器文化》出席」(大韓民国文化財研究所)
- ◆木村 勉・長尾 充 1996年10月28日～11月9日
／ドイツ「建造物保存修復の理念と方法についての現地調査」(文部省科学研究費)
- ◆肥塚隆保 1996年10月28日～11月3日
／韓国「水没出土木材の保存処理についての研究調査」(国立海洋遺物展示館)
- ◆沢田正昭・村上 隆・高妻洋成 1996年10月31日～1996年11月3日
／韓国「韓国保存科学学会出席」
- ◆町田 章 1996年10月31日～11月6日
／中国「大明宮含元殿整備会議出席及びアジアにおける古代都城遺跡の研究と保存に関する研究協力」(ユネスコ・奈文研特別研究)
- ◆高瀬要一 1996年11月15日～11月19日
／中国「遺跡保存活用状況調査」
- ◆杉山 洋 1996年11月18日～11月23日
／韓国「国際学術大会出席及び研究調査」(国立慶州博物館)
- ◆木村 勉 1996年11月23日～12月8日
／ブータン「ブータンの歴史的建造物・集落の保存のための現地調査」(文部省科学研究費)
- ◆小野健吉・加藤真二・小澤 毅・島田敏男 1996年12月9日～12月22日
／中国「アジアにおける古代都城遺跡の研究と保存に関する研究協力」(奈文研特別研究)
- ◆杉山 洋 1996年11月25日～12月1日
／カンボジア「アンコール文化遺産保護に関する共同研究」(文化庁特別研究)
- ◆沢田正昭 1996年12月8日～12月15日

／中国「中国古墳壁画に関する総合的調査と保存法に関する共同研究」(文部省科学研究費)

- ◆猪熊兼勝 1996年12月18日～12月22日
／韓国「韓国における長鼓形古墳の研究」
- ◆高瀬要一 1996年12月22日～12月30日、1997年2月25日～3月8日
／ベトナム「ホイアン日本人墓地修復に関する調査」(文部省科学研究費)
- ◆猪熊兼勝・巽淳一郎・村田健一・森本晋 1997年1月7日～1月20日
／ミャンマー「南アジア仏教遺跡の保存整備に関する基礎的調査研究」(奈文研特別研究)
- ◆西村 康 1997年2月17日～2月28日
／カンボジア「アンコール文化遺産保護に関する共同研究」(文化庁特別研究)
- ◆沢田正昭・巽淳一郎・肥塚隆保 1997年2月24日～3月1日
／アメリカ合衆国「陶磁器文化の交流に関する共同研究」(文部省科学研究費)
- ◆花谷 浩 1997年3月4日～3月17日
／カンボジア「アンコール遺跡の調査研究」(文部省科学研究費)
- ◆猪熊兼勝 1997年3月10日～3月15日
／韓国「南アジア仏教遺跡の保存整備に関する基礎的調査研究」(奈文研特別研究・国立慶州博物館)
- ◆田中 琢・町田 章・毛利光俊彦 1997年3月10日～3月16日
／中国「アジアにおける古代都城遺跡の研究と保存に関する研究協力」(奈文研特別研究)
- ◆小林謙一 1997年3月10日～3月23日
／同上
- ◆村上 隆 1997年3月10日～3月13日
／同上
- ◆佃 幹雄・清野孝之 1997年3月10日～3月29日
／同上
- ◆寺崎保広 1997年3月10日～3月16日
／中国「中国古墳壁画に関する総合的調査と保存法に関する共同研究」(文部省科学研究費)
- ◆金田明大 1997年3月10日～3月29日
／同上
- ◆西村 康 1997年3月16日～3月22日
／アメリカ合衆国「陶磁器文化の交流に関する科学的研究」(文部省科学研究費)

* () 付き特記のないものは私費渡航